

日本語指導に関わる現状、課題等一覧

～ J L T、長期研修員のアンケートより～

1. 短時間での効果的な指導

- (1) 週に一度、しかも短時間の指導・支援しかできない場合の指導法。
- (2) 日本の小学校で3, 4年教育を受けた中学1, 2年生への取り出し指導（週に一度、1時間）行う場合の効果的な活動。生徒の日本語の力にもよるが、苦手教科の先行指導や復習を中心に行っているが、それでよいか。
- (3) 取り出し指導における継続性、定着性のある指導の在り方（巡回型での指導では積み重ねを図ることが難しい）。
- (4) 週1～2回の指導の間に、どのような課題をどのくらい用意すればよいか。誰がチェックするか。
- (5) アセスメントが難しい。
- (6) 個人差への対応。在籍学級へ戻すタイミングの見極め。
- (7) 日本語指導が必要な児童生徒が複数人いる場合のバランスの取り方。
- (8) 個別の指導計画の書き方とその活用。

2. 教科指導の充実

- (1) 来日直後の児童生徒へのサバイバル日本語、初期指導のテキスト等はいろいろあり充実しているが、その子たちが教科学習に入っていくために必要となる力をどうやってつけていくか。JSLカリキュラムの効果的な使い方を身に付けられたらと思っているが。
- (2) 中学生の日本語学習とテスト対策のバランスの取り方（週に一回の取り出しで）。
- (3) 単元計画に合わせて巡回はできないので、単発的な支援になってしまう。
- (4) 中学生生徒の学力不振対策に向け、漢字を身に付けるよい方法があったら知りたい。
- (5) 教科の特性に応じた効果的な日本語指導の在り方。
- (6) 来日当初、日本語が分からなかったため当該学年の学習内容を身に付けることができなかった児童生徒への学習支援。

3. 教育相談・特別支援教育等との関わり

- (1) 教育相談的課題への対応
- (2) 特別支援教育の中の日本語指導
- (3) 特別支援教育と日本語支援を兼ねている児童生徒への指導

4. 職員間、学校間の連携

- (1) 小学校から中学校への連携。
- (2) 入り込み指導における担任への理解と協力の温度差。
- (3) 学級担任、管理職の理解。

JLT、長期研修員の疑問、悩み等一覧に対する回答①

(太田市プレクラスの取組より)

【プレクラスでの初期指導の手順・指導のポイント等】

1. ローマ字による発声とひらがなの読み書きができるかを調べる。
a () i () u () e () o () 以下50音
国籍と母国での学習状況によっては、簡単な英語によるコミュニケーションが可能。
(フィリピン、スリランカ、バングラディシュ、インドなど)
2. ○1 ができた子ども
プレクラス教材を使ったひらがなやカタカナの学習を始める。
△1 ができない子ども
絵のついたひらがなカードなどで発声しながら、発音と文字の練習をする。
例) 「いす(椅子)」が描いてあるカードを使って、「いす」の発声と発音しながら、「い」の文字を書く。
3. ひらがな、カタカナが終了すると、小学校1年生の漢字学習と、日本語の学習に進む。
日本語指導も並行して行い、あいさつや自己紹介の練習から始める。
「おはようございます こんにちは さようなら ありがとうございます」
「わたしは ～ です。」「わたしは、ブラジル人です。」「～は、～ ではありません。」
4. ひらがなやカタカナ、漢字の文字指導と日本語指導を並行し、また、時によりミックスして指導する。
先生の指示を理解すること。自分の欲求や、気持ちを表現して言うこと。
*生活に必要な行動ができるように、また、その範囲を自分自身のことから身の回りのこと、家族や先生、友だちのことへと広げていく。
5. プレクラスでは1日に3コマの学習をし、その日に学習した内容の宿題を出す。
翌日の学習の初めは、前日の内容や宿題のテストをして、学習の定着を確かめる。
子どもが定着確認テストをしているときに、指導者は宿題の点検をする。
6. 教科指導は、日本語学習がある程度進まないといけない。(算数や数学の計算は可能。)
各教科の用語(算数や数学、理科、社会)は、その多くが漢字熟語となっているので、意味を確認しながら進める。
教科書にフリガナをふることは、教科書を読むうえでは有効だが、熟語の理解ができないと問題を解くことは難しい。(理科の「地層」や数学での「展開」など、教科特有の用語がたくさんある。)

7. 高校受験を控えた中学生の教科学習という点では、理科と社会は時間をかけても効果(得点)が上がらないことが多い。語彙や文化的背景の理解が難しい。(英語や数学で、点数を稼ぐことを目指しているケースが多い。)
ただ中学生の数学に関しては、計算は進みが早い、文章題に関しては漢字や漢字熟語を理解できないことも多く、問題自体をこなすのに時間がかかる。
8. JLT 週1回の授業では系統的、継続的な指導は難しい。学校の先生で個別指導を分担していけるとよい。
週1回の指導では、子どものカウンセリング、子どもとのレポートづくりが大切。プレクラスでも「多言語翻訳機」や「翻訳アプリ」を活用して、子どもや保護者と話し合うこともある。休み時間のボール遊びや、ゲーム、カルタなど、日本語習得状況に応じた遊びを一緒にすることによって、コミュニケーションを図りながら、学習意欲を高めることができる。
9. プレクラスでは、始めから正しい文章を教えることを重視していない。特に助詞の使い方が難しいため、「私は水が飲みたいです」と言えなくとも、「みず のむ」というような表現ができればよしとする。
子どもが、
① 自分の要求や状態を伝えること(頭痛い、水飲む、トイレ行く、ママ電話など)
② 相手(主に先生)の指示を理解すること
③ 「わかりました」「わかりません」と表現できることを重視している。
10. 日本の学校のルール(外国から見ると独特なルール)を教えて理解させ、日本のルールに従って行動させる。
例) 装飾品は身に付けない、化粧品はしない、授業中や話を聞くときは姿勢をよくする、同じ人にも会うたびに何度も同じようにあいさつをする、起立・注目・礼を毎時間行う、教室やトイレの掃除も自分たちでする、など。外国で育った子どもは戸惑う場面も多いので、その都度、教えていく必要がある。
11. 初期指導を受ける子どもにとって、自分の感情(不安、悩み、悲しさ、喜びなど)を適切に伝えるためには、母語によるコミュニケーションが必要になる。母語でサポートできる指導者がいない場合は、「多言語翻訳機」や「翻訳アプリ」などを利用するしかない場合もある。
12. 40日間のプログラムを終えると、プレクラスを退室できる。学校に通学するときには個人評価表を送付し、どのくらいの日本語等が身についているかを知らせる。
13. 能力差のある児童生徒がいる場合、下の子に指導しているときには、上の子は課題に取り組ませる。複式学級のイメージで指導している。折り紙を折りながら、日本語を学ぶなど、共通して取り組める活動も行う。
14. 特別な支援を必要とする児童生徒がいる場合、時間をかけて個別にやっていくしかない。遊びを通して、日本語でやりとりできるようにしている。

JLT、長期研修員の疑問、悩み等一覧に対する回答②

(太田市国際教室の取組より)

【短時間での効果的な指導】

- ・週1～2回の指導の間に、どのような課題をどのくらい用意すればよいか。誰がチェックするか。
 - 小学校だと、多くてもプリント2～3枚程度で確実に復習できる学習（漢字練習等）を課題とする。次の指導の時間を期限とし、それを基に指導を継続していく。小学生は親の協力も必要。親への伝達があると効果がある。
 - 中学校の場合も同様であるが、枚数は生徒の実態によって決めたほうがいい。
 - その児童生徒の学力や能力にあった課題を準備することが大切。また、児童生徒の日本語指導に関わっている指導者が課題をチェックした方が学習状況に合わせた指導を行うことができる。

- ・個人差への対応。在籍学級へ戻すタイミングの見極めはどうしているか。
 - 基本的な流れ：国際教室（取り出し）で日本語及び学習をする→国際教室（取り出し）で学年相当の学習をする→在籍学級への入り込みをしながら徐々に教室へ戻していく、という段階を踏むことが望ましい。少しずつ取り出し指導の時間を減らし、入り込み指導へ切り替えながら完全に戻す、といった流れにすることで児童生徒も安心して在籍学級に戻ることができる。
 - 中学校数学などは、日本語がまだわからなくても計算学習はできるので、計算学習をしながら学習言語を少しずつ取り入れる。初めは国際教室で小学校の復習から始め、中学校の内容へと進み、入り込みをしながら在籍学級へ、という流れにしている。（いきなり在籍学級に一人で戻すのではなく、初めは何時間か日本語指導担当教員が入り込みをする。学習内容が国際教室で予習済みであるとスムーズに取り組める。）
 - 国語は、中学校の場合、小学校1年生～6年生の漢字を1年半の日安で勉強させる。読解できるようになって在籍学級に戻してから、週に1時間は取り出しをしている。特に中3は受験に向けた指導を個別に行う。または、単元を選んでその期間だけは取り出しをするなど工夫をする。そのため、教科担当との連携が欠かせない。
 - ほとんどの学校で、なるべく実技教科は取り出ししない方向でいる。不登校傾向、学力の問題がある子などは取り出している実技教科もある。

- ・日本語指導が必要な児童生徒が複数人いる場合のバランスの取り方はどのようにしているか。
 - 国際教室に、一度に多くて8人来る時間もある。言語・学年・レベルがバラバラであるため、一人ひとりのレベルに合わせた指導をしている。例えば学年相当の数学ができる生徒はワークなどを使って学習し、学年相当の学習ができない生徒は、能力別プリントなどを用意して取り組ませる。
 - 複数の児童生徒がいても、何をやらせるかをはっきり決めてあれば指導するときは困らない。学習指導記録を国際教室で共有しているため、児童生徒が何を勉強したかがわかる。国際教室で指導

している先生たちの連携が大切である。

- 日本語指導が必要な児童生徒が複数人いる場合は、優先順位をつけて指導することもある。(例えば、来日期間が短い児童生徒や受験を控えている生徒などを優先して指導を行うなど。)
- 同じ学級の児童生徒でレベルの差がある場合は、一緒に取りださないようにしている。レベルの低い子に合わせるとレベルの高い子にはマイナスになるので、できるだけ別々に取り出して指導する。

【教科指導の充実】

- ・来日直後の児童生徒へのサバイバル日本語、初期指導のテキスト等はいろいろあり充実しているが、その子たちが教科学習に入っていくために必要となる力をどうやってつけていくか。
 - サバイバル日本語などは、平均2～3か月で習得できる。漢字などを自分の母語の意味も書かせながら勉強させるだけでも、単語レベルの日本語を漢字と一緒に習得することができている。
 - 足りないところは、日本語の文法などを教えるテキストで補う。
 - 日本語学習の時間が大事だが、国際教室での学習をそれだけのために費やしてしまうと、「教科の学力がつかない、受験につながらない」となってしまうので、数学は日本語初期のレベルでも問題に取り組ませる。小学校3年から4年生の漢字ができるようになると、理科や社会の学習も理解できるようになる。
 - 取り出しをしても、同じ教科書を使って学級の進度に合わせた指導をする。
- ・中学生の日本語学習とテスト対策のバランスの取り方をどうしているか(週に一回の取り出しで)。
 - 日本語学習初期の生徒はバランスとすることは難しいので、英語又は数学のできる範囲の勉強をさせる。一つの教科を選んでそのテストが確実にできるようにして、自信を持たせることが大事。
 - 時間を区切って日本語学習とテスト対策の両方を取り組ませている。または、放課後補習ができる場合は、取り出し指導で日本語指導を行い、放課後補習ではテスト対策を行うこともある。
- ・中学生生徒の学力不振対策に向け、漢字を身に付けるよい方法があったら知りたい。
 - とにかく毎日漢字ノートに宿題を出して、次時に小テストを行い、書ける漢字を増やしていく。日本人の小学生が漢字練習帳を使って覚えるのと同様に、毎日毎日の積み重ねをするしかない。
 - 生徒自身に新しく学んだ漢字のカードを作らせて、毎授業で読み方の確認をする。
 - 「さんずいは水に関する言葉」など、へんやつくりのパターンを教えてあげると理解が早い生徒もいる。
- ・教科の特性に応じた効果的な日本語指導の在り方を知りたい。
 - 英語を教えるときに、英語・日本語・自分の母語の意味を確認しながら勉強すると、英語の意味だけでなく日本語の意味も同時に覚えていく。
 - 数学はとにかく計算から始めるが、必ず問題文を読ませて(計算しなさい、解を求めろなど)、テストでどんなことが問われているかわかるように指導する。
 - 母語で文字が書ける児童には日本語の文章を児童に読ませて、分からない言葉に母語の言葉を横に

書かせることで、理解できる言葉の量を増やすことができる。母語で書けない児童については、分からない言葉の横に絵や口頭で説明をする

・ **来日当初、日本語が分からなかったため当該学年の学習内容を身に付けることができなかった児童生徒への学習支援**はどのようにすればよいか。

- 初期でも、日本語学習だけにしないことが大切である。学習内容を日本語の勉強としても教えていく必要がある。理科、社会などの内容を使いながら日本語を学習していくことができる。例えば、「縄文土器は、食べ物を入れる器でした。」など、学習言語を取り入れて日本語の文を作ることができる。

【教育相談・特別支援教育との関わり】

・ **特別支援教育と日本語支援を兼ねている児童生徒への指導**はどのようにしているか。

- 特別な支援を必要とする児童生徒でありながら、親がそれを認めないため、「日本語がわからないから成績が低い」と思われている児童生徒もいるのが課題である。
- 日本語を使わなくてもできる知能テスト（パズル、作業等）や母語でサポートしながらの知能テストを受けることを促していく。

【職員間、学校間の連携】

・ **小学校から中学校への連携のポイント**は？

- 小学校 6 年生の外国人児童との情報交換はとても大切である。中学校の文化は、外国人児童やその保護者にとっては、理解が難しい場合がある。
- 夏休みに小中学校の交流会を開いて、行事や部活など、中学校のシステムを入学説明会の前に話しておくのはとても効果的であった。

・ **入り込み指導における担任への理解と協力の温度差がある場合の対応**は？

- 担任の考えも人それぞれだが、とにかく日本語指導担当教員がサポートする立場であることを分かってもらうために、こまめに声がけをするのが大事。「今日、国語の授業の時、教室で入り込み指導をしますので、よろしくお願いします。」など、その日のサポートについて具体的に知らせる。
- 入り込みでスムーズに支援ができるように授業開始前に担任と打ち合わせをする。そして外国籍の子だけではなく、他の日本人の子も支援する。授業の終わりには、必ず担任へ報告をする。
- 外国の文化や日本語教育に関するおたよりを職員向けに作成し、国際理解を深める。

・ **学級担任、管理職の理解を得る**には？

- 報告・連絡・相談を忘れず、自分の仕事をしっかりする。生徒指導、保護者対応、取り出し指導、入り込み指導等、すべて担任と事前事後に連絡・報告を行い、必要に応じて管理職に報告する。

日本語習得チェック表 プレクラスひまわり教室

*プレクラス通級中に学校に行くときに学校へ送付するチェック表

〇〇小学校 5年 組 名前

記入例

【プレクラスを卒業するときの目標】

- 基本的なあいさつができ、自分の名前や身の回りのものの名称を認識できる。
- かな(ひらがな・カタカナ)の読み書きができる。

領域	チェック項目		10月15日	月 日
読む	音読	1 ひらがなが読める	◎	
		2 カタカナが読める	○	
		3 ひらがなの濁音や「きゃ」「えいが」「っ」が読める	◎	
		4 正確に発音ができる	○	
	漢字	1 年生の漢字が読める (訓読み中心)	◎	
2 年生の漢字が読める (訓読み中心)漢字は友達一課まで		○		
聞く	語彙表現	1 50音が聞いてわかる	◎	
		2 教室の中の物の名前が聞いてわかる	◎	
		3 体の部位の名称が聞いてわかる	○	
	聞く力	1 「これは何ですか」が聞いてわかる	◎	
		2 「～はどこですか」が聞いてわかる	○	
		3 指示語が聞いてわかる	○	
		「立って下さい、すわって下さい、みて下さい、聞いて下さい 開いて下さいなど」		
書く	語彙書く力	1 名前が正しく書ける	◎	
		2 ひらがなが書ける	◎	
		3 カタカナがかける	○	
		4 絵を(教室、体の部位)を見て、物の名前が書ける	○	
	漢字	1 年生の漢字が書ける (訓読み中心)	◎	
2 年生の漢字が書ける (訓読み中心)漢字は友達一課まで		◎		
話す	語彙表現	1 挨拶ができる	◎	
		2 名前、学校名、学年などが言える	◎	
		3 教室の絵を見て物の名前が言える	○	
		4 体の部位の絵を見て名称が言える	○	
	発音	1 正確に発音できる	△	
		2 知っている単語を使って積極的に話そうとする	○	
◎よくできる5点 ○できる3点 △もう少し1点				
コメント	第(1)回チェック 令和1年 10月 15日(火)		94 /120点	
	日本語の勉強や漢字練習をいやがらずに一生懸命頑張っています。ひらがなの読み書きはできます。カタカナはまだすらすらは読めません。字を丁寧に書きます、ノートも丁寧です。漢字の確認テストではほとんど100点取っています(訓読み中心)。日本語の勉強は、果物、動物、教科名、勉強で使う道具の名前、体の部分、カレンダー、形容詞、動詞、時間の言い方などを学習しました。明るい性格で授業中積極的に発言します。話したいことがあると、知っている日本語や絵を使って一生懸命伝えようとしています。			
担任名				

個人評価表（記入例）

太田市立 小学校			2年 組			氏名 ○○ ○○			
入室 令和 1年 5月 28日			退出 令和 1年 7月 18日						
No.	評価項目	できます	ふつう	がんばろう	No.	評価項目	できます	ふつう	がんばろう
1	日常生活での挨拶の言葉と授業内での挨拶の言葉が言える		○		21	「～ています」「～ていません」の表現が出来る			○
2	自分の名前、国の名前が言える		○		22	家族の名称と人の数え方が言える		○	
3	果物の名前を覚え自分の好き、嫌いな果物の名前が言える		○		23	自分の家族について紹介出来る		○	
4	自分の年齢と学校の名前を覚え、自己紹介が出来る		○		24	果物と野菜の名称と形の表現が出来る			○
5	指示語でよく使われる動詞「～てください。」の表現が出来る		○		25	「～は～（イ形容詞）です。」「～は～くありません。」の表現が出来る			○
6	許可の依頼表現「～てもいいですか。」の形の表現が出来る		○		26	「～は～くて～（形容詞）です。」の表現が出来る			○
7	学習道具を覚え、「～は～です。」「～は～ではありません。」「～は～ですか。」「～は～を～ました。」「～を～てください」の表現が出来る		○		27	「～は～で～（形容詞）です。」の表現が出来る			○
8	「これ、それ、あれ」で物の名前の訪ね方、その答え方が出来る		○		28	動物の名前が言える		○	
9	「～を～ました。」「～を～貸してください。」が言える		○		29	動詞を使って副詞の言い方が分かる			○
10	身の回りのものが誰のものか言える		○		30	「～曜日、～月」の表現が分かり、言える		○	
11	学校内の場所（職員室等）の名前が言える		○		31	「現在、過去、未来」の表現のちがいが分かる。			○
12	物や場所の位置を表す言葉を覚え、場所の訪ね方とその答えが言える		○		32	「日にち」と「季節」の名前が言える		○	
13	体の部分の名称が言える		○		33	何月何日何曜日が表現出来る		○	
14	体の具合が悪い時、その症状の様子が表現出来る		○		34	「～時～分」の表現が出来る		○	
15	給食の道具の名称が言える			○	35	「～時～をする」「～時に～があります。」「～時に～します。」の表現が出来る		○	
16	給食に関する「～を～ます。/～は～（イ形容詞）です」「～は～がすきです。」等の表現が出来る		○		36	「～は～時にはじまります/おわります」の表現が出来る		○	
17	掃除に使う道具の名称が言える		○		37	「～時から、～時まで」の表現が出来る			○
18	掃除に関する「～は～を～ます（ました）」「～は～で～を～ます（ました）」の表現が出来る			○	38	教科の名前と時間割の見方が分かる			○
19	洋服の名称と色が言える		○		39	「～に（存在場所）～（主語）が～（助数詞）あります。」の表現が出来る		○	
20	洋服の着脱の表現が出来る			○	40	「～に（存在場所）～（主語）が～（助数詞）います。」の表現が出来る		○	

個人評価表

太田市立 小学校			2年 組			氏名 ○○ ○○			
入室 令和 1年 5月 28日			退出 令和 1年 7月 18日						
No.	評価項目	できます	ふつう	がんばろう	No.	評価項目	できます	ふつう	がんばろう
41	形容詞を覚え、「～いです。」 「～くありません。」の表現が出来る			○	62	位について理解し、日本語で言える			○
42	形容詞の反対言葉を覚える			○	63	学校から家までの道順が言える	未習		
43	「～（形容詞）の反対は～（形容詞） です。/この～は～くありません。」の表 現が出来る			○	64	大きい数のしくみが分かる	未習		
44	（イ形容詞文丁寧体過去の肯定）「～ は～かったです。」の表現が出来る			○	65	大きい数の数え方、書き方、読み方 が出来る	未習		
45	場面や事柄が適切な動詞を使って 「～ます。～ません。」の表現が出来る			○	66	「～は～に～をあげます。/ もらいます。」の使い方が出来る	未習		
46	場面や事柄が適切な動詞を使って 「～ました。～ませんでした。」の表 現が出来る			○	67	ひらがなが読める		○	
47	「～は～へ行きます。/来ます。」の表 現が出来る		○		68	ひらがなが書ける		○	
48	「～は～へ行きました。」「～は～で～ へ行きました。」の表現が出来る			○	69	カタカナが読める		○	
49	「～は～が欲しい。」「～は～が～ たいです。」の表現が出来る（形容詞 文の肯定）		○		70	カタカナが書ける		○	
50	「～は～が欲しくありません。/~は～ がしたくありません。」の表現が出来る （形容詞文の否定）		○		71	ひらがなの長音が読める		○	
51	簡単な作文が書ける。			○	72	ひらがなの長音が書ける		○	
52	接続詞の使い方が分かる	未習			73	カタカナの長音が読める		○	
53	足し算の文章題のポイントとなる言 葉が分かる		○		74	カタカナの長音が書ける		○	
54	「引き算の文章題のポイントとなる 言葉が分かる		○		75	ひらがなの促音が読める			○
55	物と人の順番の表し方が分かり いえる	未習			76	ひらがなの促音が書ける		○	
56	助詞「で」の使い方「～は～で～を～ ます。/です。」の表現が出来る	未習			77	カタカナの促音が読める			○
57	理由①（伝える表現）「～で～を～ま す。」	未習			78	カタカナの促音が書ける		○	
58	「どうしてですか。」という質問に答 えられる	未習			79	ひらがなの拗音が読める			○
59	物の長さの測り方と表し方が分かる	○			80	ひらがなの拗音が書ける		○	
60	最上級の表現「～と～と～と、どれが 一番～ですか。が言える」	未習			81	カタカナの拗音が読める			○
61	昨日や今日の事、これからしたい事な どのお話出来る	未習			82	カタカナの拗音が書ける		○	

個人評価表

太田市立 小学校		2年 組			氏名 ○○ ○○				
入室 令和 1年 5月 28日				退出 令和 1年 7月 18日					
No.	評価項目	できます	ふつう	がんばろう	No.	評価項目	できます	ふつう	がんばろう
83	ひらがなの拗長音が読める		○		108	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 指導担当より所見 () </div> <p>【学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字指導では、50音のひらがなを覚えるまでに時間かかりました。何度も同じ勉強してもなかなか覚えられず、本人もプレッシャーを感じていました。後半になってからひらがなとカタカナの読み書きができるようになりました。1年生の漢字は終わりました。ほぼ定着しています。2年生の漢字の勉強に入ってから、国語の教科書を使って、音読で1年生の漢字の復習をしていました。漢字の学習では、書き順を間違えることが多いです。10問テストでは、書けない字が多くありましたが、今は一生懸命思い込んでいる姿が多く見られました。終わりの時間になっても“終わりダメ・終わりイヤだ”と言っていました。最後までやりたい気持ちが印象的でした。 ・いつも自分のペースで進んで、授業に遅れることがしばしばありました。授業中では、言いたいことが伝わらないため、もどかしさを感じている場面が見られました。 <p>【行動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、笑顔で登校して進んであいさつするようになりました。 ・言葉は通じなくても誰とでもすぐに仲良くすることができ、休み時間には、元気に遊んでいました。 ・基本的な学習をコツコツと継続しながら、明るく元気に過ごしてほしいです。 			
84	ひらがなの拗長音が書ける		○		109				
85	カタカナの拗長音が読める		○		110				
86	カタカナの拗長音が書ける		○		111				
87	数字1000まで言える		○		112				
88	数字1000まで書ける		○		113				
89	九九を覚えた	未習			114				
					115				
90	小学校1年の漢字が読める 訓読み中心		○		116				
91	小学校1年の漢字が書ける 訓読み中心		○		117				
92	小学校2年の漢字が読める 訓読み中心				118				
93	小学校2年の漢字が書ける 訓読み中心				119				
94	小学校3年の漢字が読める 訓読み中心	未習			120				
95	小学校3年の漢字が書ける 訓読み中心	未習							
96	該当学年の漢字が読める			○					
97	教科書1年生程度の音読が出来る		○						
98	教科書2年生程度の音読が出来る	未習							
99	繰り上がりのない足し算が出来る		○						
100	繰り上がりのある足し算が出来る		○						
101	繰り下がりのない引き算が出来る		○						
102	繰り下がりのある引き算が出来る		○						
103	足し算の筆算が出来る		○						
104	引き算の筆算が出来る		○						
105	分数 (高学年・中学生)								
106	小数 (高学年・中学生)								
107	四捨五入 (高学年・中学生)								

令和2年 月 日

太田市立 学校長
〇〇〇〇 様

プレクラス ひまわり教室
アドバイザー 〇〇〇〇

出欠席状況について

〇〇〇〇さんの、プレクラスひまわり教室における出席状況をお知らせいたします。
つきましては、学校での指導の参考にしていただければ幸いです。
なお、入室から退出までの出欠席の状況は下記のとおりです。

記

〇入室日	令和元年 月 日	
〇退出日	令和元年 月 日	
〇欠席日	7月4日 5日 9月4日 12日 19日	5日
〇朝から学校に登校	6月20日 9月2日 27日	3日
・プレクラス出席日数		35日

学校行事などで
登校した日数

令和〇年度 特別の教育課程編成・実施計画

学校名	太田市立〇〇小学校
学校長	坂東太郎
提出日	令和〇年度7月1日

指導内容：①サバイバル日本語、②日本語基礎、③技能別日本語、④日本語と教科の統合学習、⑤教科の補習

No.	学年	児童生徒氏名	指導内容							指導時間	指導形態		指導者
			学習段階	①	②	③	④	⑤	その他		指導期間		
1	小2	カナヤマ ジュデー	初期		○	○	○			週5時間	週2 取り出し指導 週3 入り込み指導	赤城 白根	
H30. 4～H31. 3													
2	小2	ウエノ ダイアン	初期		○	○	○	○	プレクラス 通級4月 ～6月	週3時間	週1 取り出し指導 週2 入り込み指導	赤城 白根	
H30. 4～H31. 3													
3	小5	カスカワ マリアテレサ	教科につ ながる学 習		○	○	○	○		週6時間	週2 取り出し指導 週4 入り込み指導	赤城 白根 榛名	
H30. 4～H31. 3													
4	小6	デビット アン	教科につ ながる学 習	○	○	○	○			週5時間	週4 入り込み指導	榛名 妙義	
H30. 4～H31. 3													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													

【備考欄】

Blank area for additional notes or remarks.

個別の指導計画(例)

作成年月日 令和元年 ○ 月 日
作成者

フリガナ 児童生徒氏名 (通称)	アカギ ドミンゴ マリア ケイト AKAGI DOMINGO MARIA KAITO (アカギ ケイト)				性別	国籍	ブラジル		
					女	出生地	ブラジル		
						生年月日	2009年10月11日		
フリガナ 保護者氏名 (通称)	アカギ ドミンゴ ステロ ケント AKAGI DOMINGO SUTERO KENTO (アカギ ケント)				続柄	父			
入国年月日	平成 31 年 3 月 1 日				学校受入年月日	令和 2 年 4 月 1 日			
家族 構成	続柄	氏名	国籍	日本語理解の状況(翻訳・通訳が必要ななら○)					
				文書翻訳	面談等	その他			
	父	トミナガ ビシエナブラディミル プリト	ブラジル	○	△	簡単な日本語での会話ができる。			
	母	ドミンゲス コンセーロ	ペルー	○	△				
	姉	アカギ マツエ	ブラジル	△	△	高校生で、簡単な会話が可能。			
	兄	アカギ ジョウ	ブラジル	△	△				
家庭内使用言語 と 状況	父:ポルトガル語		母:ポルトガル語		本人:ポルトガル語				
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
年度	平成28	平成29	平成30	令和元					
在籍(学校)	〇〇東小 学校	△△小 ■■■小	〇〇小	△小					
成育歴・学習歴	ブラジル?で生まれ3歳で来日。愛知県に住む。〇〇町で幼稚園に通う。東小学校に入学。日本語学級に通う。2年で△△市に転居。△△小学校に転校するが、後半家庭の事情で欠席が多くなってしまった。本校に転校後は、元気に登校。絵本を読む読み聞かせから、自分で音読するようになる。現在は2年の漢字の学習。算数は2年生から学習し、3年生の学習に入った所である。								
支援状況	学校内	国語・算数は取り出し授業。授業に応じて入り込みをしてきた。							
	学校外	自分でできる宿題をだしていた。							
進路希望	本人					保護者			
その他 (健康・食生活・宗教・ 集金・趣味・特技・ 部活など)	<クラスでの様子> ・給食は偏食がなく、よく食べる。 ・集金は支払っている。 ・生活経験が乏しいので、色々な体験をさせたい。 ・明るく元気がよく、クラスの友だちともあそぶことができる。								

個別の指導計画(例)

令和〇年度 No. ()

作成年月日 令和〇年 〇 月 〇 日

作成者 榛名 花子

児童生徒氏名		アカギ ケイト						指導時間			指導場所		
指導者 指導助手		榛名花子 佐藤 マリア						週(10)時間 月(40)時間 その他 5時間程度			国際教室		
日本語の力	話す	簡単な日常会話程度											
	読む	ひらがな・カタカナは読めるが、漢字については、熟語になったり、文章中になると読めないことが多い。											
	書く	苦手である。特に作文経験が少なく本人が言いたいことをくみ取りながら、一緒に書いた。											
	聴く	読み聞かせは好きでよく聞かすが教室で担任の指示が、理解できないことがある。											
母語の力		話ができるが書けない。											
プ 日 本 語 指 導	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	初期指導												
	教科学習のための日本語指導	1年の漢字	音読	作文の練習									
長期目標		漢字能力の定着 ・音読 (イントネーション、言葉のまとまり)ができるようにする。 ・算数の計算が定着するようにする。											
「特別の教育課程」による日本語指導計画				具体的な指導の手立て				成果を見取る方法			成果・変容		
	<国語> ・教師の簡単な指示を聞いて、動くことができる。 ・恥ずかしがらず音読することができる。 <算数> ・繰り上がり繰り下がりのある計算をできる。 ・かけ算九九を暗記することができる。			<国語> ・基本的な指示を一緒にする。 ・絵本を使い、授業の前に読み聞かせをする。 <算数> ・プリントを使い、繰り返し練習する。 ・宿題等自分で出来る物を出し、「できた」という、達成感を持たせるようにする。 ・かけ算九九は毎時間唱え、練習する。				<国語> ・入り込みの授業で見取る。 ・実際に読みたい絵本を読ませてみる。 <算数> ・宿題プリントで、確認する。 ・かけ算九九のテストや百マス計算プリントで確認する。			<国語> ・絵本を読むことは、好きになり一生懸命読むようになる。 <算数> ・繰り上がり繰り下がりある計算の時、手を使う。 ・かけ算九九は、5のどんまで合格できた。		
取り出し指導時間累計		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今後への引き継ぎ	課題						必要な配慮・手立てなど						
	・国語については、日本語指導助手の先生に、語彙を増やしてもらおうと良い。絵本を読むことが好きなので、続けて欲しい。 ・算数は、計算問題を落ち着いて解くこと。かけ算九九の暗記。						・母語を話しながら、日本語の語彙を増やす。生活経験を増やすことにより、語彙は増えていくと考える。 ・実際に読みたい絵本を読ませてみる。 ・宿題プリントで、確認する。 ・かけ算九九のテストや百マス計算プリントで確認する。						